

第2章

前計画の評価とニーズ調査



第2章 前計画の評価とニーズ調査

1. 第3次地域福祉活動計画の評価

前計画である第3次地域福祉活動計画での実施内容及び評価についてご報告します。基本理念の達成に向け5つの基本目標を掲げ事業を展開しました。その実施事業について事業推進委員会²³で項目ごとに評価をしていただき表のとおり整理しました。

基本目標1 共に助け合い・支え合いのまちづくり

～地域での話し合いや交流の場をつくり、共に助け合い、支え合いのまちづくりを目指します～



地区社協手引きの作成



ふれあい・いきいきサロン交流会の様子

○主な実施事業（成果）

1. 社協支部・地区社協活動の推進

地区社協活動をより一層充実したものになるよう、地区社協活動の手引きを作成しました。

2. ふれあい・いきいきサロン事業

ふれあい・いきいきサロン活動をより充実させるために、サロン運営者や、サロン活動に取り組もうとしている方を対象に、各福祉区でふれあい・いきいきサロン交流会を実施しました。

3. 子どもの居場所づくり相談窓口設置事業

自分で新たに開設してみたいと思っている方、運営内容について知りたい方など、立ち上げのきっかけや活動のヒントにしていただけるよう「子どもの居場所づくりガイドブック」を作成しました。

4. 生活支援サービス体制整備事業

地域支え合い推進会議の設置・運営を推進するために支え合い推進員を各福祉区に配置し地域支え合い推進会議設置の働きかけを行いました。

○継続・検討事項（課題）

- ・地域の居場所の新規立ち上げ及び活動継続支援
- ・地域支え合い推進会議未設置地区への働きかけ

23 岡山市社会福祉協議会の「地域福祉活動計画、発展強化計画の策定に関すること」、「事業計画などの進行管理・評価に関すること」、「各種補助・助成事業の審査に関すること」、「新規事業など企画立案に関すること」を定めることを目的として設置されている委員会のことをいう。

基本目標2 人づくり ボランティアの心を育むまちづくり

～ボランティア養成と福祉教育を推進し、ボランティアが活動しやすい街づくりを目指します～



出前福祉体験事業の様子



災害ボランティアセンター
設置訓練の様子

○主な実施事業（成果）

1. 出前福祉体験授業

外部講師等とも連携し学校や企業などに出向き、出前福祉体験事業を実施しました。

2. 夏のボランティア体感事業

区ごとで実施することで受け入れ施設・団体と区事務所の連携強化を図りました。

3. 災害に備えた体制づくり

岡山NPOセンターや岡山市とも連携し会議を行いました。
また、災害に備え、災害ボランティアセンター設置訓練を実施しました。訓練では地域の方にご参加いただき、災害ボランティアセンターに対する理解が深まるようにいたしました。

○継続・検討事項（課題）

- ・公益的な取り組みに意欲的な社会福祉法人等との連携
- ・さまざまなケースを想定した災害ボランティアセンター設置訓練の実施

基本目標3 ニーズを受けとめ、寄り添う体制づくり

～市民のみなさんや関係機関との協働による、権利擁護体制を推進します～



寄り添いサポートセンター
PRカード

○主な実施事業（成果）

1. 生活困窮者自立相談支援事業

生活にお困りの方の相談はある程度あるものの、福祉事務所などの行政機関からの相談が多いこともあり、事業をより周知するため、各地区の会議等に出席し事業説明を実施しました。



東区意見交換会の様子



全市フォーラムの様子

2. 地域における公益的な取り組み (社会福祉法人との連携)

平成30年度及び令和元年度に東区において社会福祉法人の意見交換会を実施し、社会福祉法人のネットワーク構築に努めました。令和元年度には地域共生社会の実現に向けた全市フォーラムを開催しました。

3. 包括的支援体制構築事業

生活に困られた方の世帯によっては、複数の関係機関が連携して支援を行う必要があります。このような複合課題を抱える世帯に対して、複合課題ケース検討会、複合課題解決アドバイザー会議を開催しました。会議では各機関の役割分担や情報共有を行いました。

○継続・検討事項（課題）

- ・多様な支援機関、支援主体との連携強化
- ・社協職員に対して相談支援・地域福祉に関する専門的な研修の実施

基本目標4 安心して暮らせるための新たなサービスの取り組み

～サービスの改善をはかり、質の向上を目指します～



児童館の様子

○主な実施事業（成果）

1. 身体障害者居宅介護事業・障害者自立支援事業

ケース検討等を通じて、利用者の日常生活の自立支援、社会参加に対し、一定の役割を果たすことができました。

2. 児童館の運営

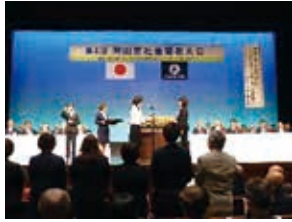
通常の活動に加えて各館がある地域の方に運営委員に参加していただき、実績報告、年間計画、活動報告などを話し合う、運営協議会を各館年2回開催しました。

○継続・検討事項（課題）

- ・親子で参加できる行事の実施について検討

基本目標 5 見える社協づくり

～市民のみなさんや関係機関への情報提供を強化し、見える社会福祉協議会を目指します～



岡山市社会福祉大会の様子



社協だより

○主な実施事業（成果）

1. 情報発信の仕組みづくり

全ページカラーにすることで読みやすく、より地域情報を取り入れた社協だよりを年4回発行し、事業及び支部・地区紹介を行いました。またホームページを一新したことやFacebookの活用により情報発信に心がけました。

2. 岡山市社会福祉大会の開催

福祉のまちづくりについて考えるきっかけづくりとして毎年1回開催。大会の前半では岡山市の福祉に貢献された方の表彰を行い、後半では福祉に関わりのある著名人を招きご講演いただきました。多くの参加があり、福祉活動の啓発に努めました。

○継続・検討事項（課題）

- ・タイムリーな情報発信
- ・法人や活動に興味を持っていただく内容の充実

第3次地域福祉活動計画評価から見てきた主な課題

- 地域の居場所の新規立ち上げ及び活動継続支援
- 地域支え合い推進会議未設置地区への働きかけ
- 公益的な取り組みに意欲的な社会福祉法人等との連携
- さまざまなケースを想定した災害ボランティアセンター設置訓練の実施
- 多様な主体との連携強化
- 相談支援・地域福祉に関する専門的な研修の実施
- タイムリーな情報発信

2. 第4次発展・強化計画の評価

前計画である第4次発展・強化計画での実施事業及び評価についてご報告します。4つの活動方針を掲げ基本理念達成に向けて取り組みました。事業推進委員会で項目ごとに評価をしていただき表のとおり整理しました。

活動方針1 経営基盤の充実・強化と透明性の確保(法人運営部門)

○主な推進目標の成果

1. 行政とのパートナーシップの強化

担当者レベルの定期協議では打合せ等の機会が増えており、行政との連携がしっかりと取れていると思われます。また、平成30年度に岡山市社会福祉協議会改革方針を策定する過程や、その後の進捗管理・補助金等の協議をする中で緊密に連携が取れる関係を構築することができています。

2. 経営視点の強化

事業の増加に伴ってコピー・ガソリン代等、膨らんでいる経費もありますが、改革方針を策定し、経費の見直しや削減に努めました。

また、職員間でのグループウェア²⁴を利用することで情報共有の効率化を図りました。

3. 人材の確保と育成

全国社会福祉協議会や岡山県社会福祉協議会など、さまざまな外部研修へ職員を積極的に参加させ人材育成に努めました。新年度採用の募集について年度末に行っていたものを、時期を早めることにより応募者を増やし、より良い人材を確保することに努めました。

令和2年度にメンター制度²⁵を導入し、新採用職員に対し経験がある職員がフォローをする体制づくりを行いました。

○継続・検討事項(課題)

- ・経費の見直し、削減を図るなど効率的な経営
- ・適正な人材評価と将来を見通した人員配置

24 ネットワークに接続されたコンピュータ同士で情報の交換や共有、またスケジュール管理等の業務の効率化を目指し、さまざまな機能を一つのシステムに統合したもの。

25 所属する上司とは別に、年齢の近い年上の先輩社員や、社歴に近い先輩社員が新入社員や若手社員をサポートする制度。

活動方針2 支え合える地域づくりと担い手の確保(地域福祉活動部門)

○主な推進目標の成果

1. 支部・地区社協活動の強化

5地区での小地域福祉活動計画策定の支援を行い、小地域での福祉活動の推進を図りました。

地区社協の手引きを作成し地区社協活動の活性化を図りました。

2. ボランティア支援体制の整備

平成30年7月豪雨では北区・東区災害ボランティアセンターを設置・運営し、被災した方に対し、家屋の片付け、床下の泥かき等の支援をするための災害ボランティア支援のコーディネートを行いました。

出前福祉体験教室のマニュアルを作成し、体験教室の質の向上を図りました。

3. 関係機関・団体との連携

平成30年度はモデル的に東区内の社会福祉法人の交流会を開催しました。令和元年度には地域共生社会の実現に向けた公益事業全市フォーラムを開催しました。

○継続・検討事項（課題）

- ・ボランティアの相談支援体制
- ・社会福祉法人等との連携強化

活動方針3 利用者本位の在宅福祉サービスの充実(在宅福祉部門)

○主な推進目標の成果

1. 介護保険法事業の質的向上

岡山市社会福祉協議会改革方針に基づき、「介護保険事業の受託」を「地域福祉活動の推進」に活動の方向性を変更しました。これにより、瀬戸町デイサービスセンターは令和元年度、ほのぼの荘は令和2年度をもって事業を終了しました。

2. 障害者居宅サービスの質的向上

必要性に応じて事例検討会議を開催し、利用者にあったサービスの検討や職員間での情報共有を図りサービス向上に努めました。

○継続・検討事項（課題）

- ・岡山市社会福祉協議会改革方針に基づいた事業のあり方についての再検討

活動方針 4 相談をうけとめ寄り添う体制づくり(生活支援・総合相談部門)

○主な推進目標の成果

1. 生活困窮者自立相談支援事業体制の充実

「交流ネットワーク会」、「支援進行確認会議」等の会議を行い、職員間の相談支援の情報共有を行うことで OJT²⁶を行いました。また関係機関に会議へご参加いただき、支援ネットワークの拡大や連携強化・新たな支援方法の確立を図りました。

2. 法人後見受任体制の整備

担当職員は成年後見制度についての勉強会に積極的に参加し、スキルアップに努めました。また市民後見人養成講座を修了した方に成年後見支援員として活動していただけるように努めました。

3. 日常生活自立支援事業体制の充実

本人の意思決定支援を重視するため、問題が起きた場合は、ケース会議等で関係者との情報共有や利用者の意思を確認し課題の整理を行いました。

○継続・検討事項（課題）

- ・ 個別支援から地域へ、地域から個別支援へつなぐ社会福祉協議会内での体制構築
- ・ 職員の相談支援スキルの向上

第4次発展・強化計画の評価から見えてきた主な課題

- 経費の見直し、削減を図るなど効率的な経営
- ボランティアの相談支援体制
- 社会福祉法人等との連携強化
- 職員の相談支援スキルの向上
- 適正な人材評価と将来を見通した人員配置

26 On-the-Job Trainingの略称で、職場で実務をさせることで行う職員の職業教育のこと。

3. 地域ニーズ調査について

計画の策定にあたり、地域の皆様が感じている地域福祉活動の現状と課題を把握するために、ヒアリング調査を実施しました。

区	北区	中区	東区	南区
地 域	足守中学校区	三軒小学校区	東区福祉区	光南台中学校区
実 施 日	R2年7月22日	R2年8月20日	R2年9月10日	R2年9月1日
場 所	日近公民館	東山公園集会所	西大寺ふれあいセンター	光南台公民館
参 加 者 数	17名	6名	17名	8名
参加者構成	社協足守支部役員	小地域ケア会議メンバー	各地区民生委員 児童委員会 会長等	元気の出る会 参加者

地域ニーズ調査から見てきた主な課題

- 役員に任せっきりで、自分が活動するという意識が低い
- 外に出てこない高齢者も多く、コミュニケーションをとりにくく感じる
- 困っていても助けや相談を求めない人もいる
- 世代間を超えた話をする機会がない
- 近隣の施設などとの連携
- 情報発信が足りていない
- 買い物に行くにも足が無いので困る

※地域ニーズ調査の詳細はP30～P33に掲載しています。

実施地区：足守中学校区

基本情報

人口6,175人 世帯数2,845世帯 高齢化率41.2%

R2.9末現在

岡山市中心部から北西に約10km、笹ヶ瀬川支流の足守川沿いに開けた山あいの町であり、文化財や観光資源が点在しています。産業として果物の生産が盛んで、特にアールスメロンは、「足守メロン」の名称でブランド化されています。



地域の「良いところ」

顔の見える関係

- ・地区の人や家がだいたいわかる
- ・コミュニケーションが良く取れている
- ・地域をあげて見守りをしている
- ・高齢者施設との連携はできている

防災関係

- ・自主防災が全てできている
- ・防災訓練をしている

交通

- ・生活バスがある。役立っていて、気分的にも良い方になっている

地域の「心配なところ」

担い手不足

- ・人口減少で地域の活動が減っている
- ・一人の人が複数の役を兼務している
- ・役員に任せっきりで、自分が活動するという意識が低い

交通

- ・買い物に行けない人が出ている
- ・生活バスに頼っている

交流

- ・話はしやすいが、世代間を超えた話をする機会が少ない
- ・困っていても助けや相談を求めない人もいる

「良いところ」を継続し、「心配なところ」が少しでも解決に向かうためには…

支え合い、交流を増やす

- ・ふれあいの行事を通して世代間の交流をはかる
- ・サロン活動の継続。細かく分けて実施できたらよりコミュニケーションの機会が増えると思う

連携

- ・地域の施設と連携していく

防災意識を高める

- ・防災意識を高めるために勉強会をする(講座)
- ・高齢者がより多くなり、災害の時の避難所をもっと多くする

交通の利便性

- ・多くの人が集まれるところに生活バスをもっと通す
- ・生活バスを地域で支えて充実させる

実施地区：三勲小学校区

基本情報

人口11,618人 世帯数5,436世帯 高齢化率26.4% R2.9末現在

東は操山、西は旭川にかこまれ、四季折々の美しい景色と環境に恵まれています。学区内には、南北に国道250号線(旧・2号)が、東西には県道・岡山＝牛窓線が走り、岡山電気軌道・東西南北にバス路線を利用して岡山市中心部へ短時間で赴く事ができます。大正11年三勲小学校の設立により三勲学区として現在に至っています。



地域の「良いところ」

連携

- ・諸団体の代表者の協力体制がよい
- ・地域活動が充実している
- ・地域の各種団体との協力で催し物が年に数回あり、各町とのつながりを持っているのが幸せ

若い世代の増加

- ・マンションが増えて子どもが増えて若い家族も増えた

地域の「心配なところ」

町内会未加入

- ・町内会や子ども会への加入がない
- ・マンションで孤立していて、町内会、子ども会に入らないところがあり困る

コミュニケーション不足

- ・外に出てこない高齢者も多く、コミュニケーションを取りにくく感じる
- ・各町内の横のつながりも薄くなっていて、家が建っても名前すら知らないと言うこともある

「良いところ」を継続し、「心配なところ」が少しでも解決に向かうためには…

コミュニケーション

- ・お互いのコミュニケーションを重ね、理解し合うこと
- ・コミュニケーションが大切
- ・出来るだけコミュニケーションを日頃からとれるよう個人の努力はしていきたい

情報発信

- ・情報発信（文書などで）をする

実施地区：東区福祉区

基本情報

人口94,728人 世帯数42,134世帯 高齢化率30.5% R2.9末現在

東区は旧西大寺市・上道町・瀬戸町からなり、区域の西端を百間川が、中央を一級河川の吉井川が貫流しています。また、岡山市内唯一の有人島である犬島があります。西大寺地区は日本三大奇祭の一つとしても数えられる、西大寺会陽（裸祭り）が行われています。日射量も多く、穏やかな自然環境をもっています。



地域の「良いところ」

顔の見える関係

- ・地域行事が継続されて行われている
- ・小学生もきちんと他の人に挨拶ができている

担い手

- ・「自分たちの地域を自分たちで協力し、汗を流して作っていく」という意識がある

子育て

- ・子どもが元気に公園で遊んでいる
- ・若い世代が地域のつながりが深くなる活動ができている

地域の「心配なところ」

地域のつながり

- ・地域行事が少なくなった
- ・近所づきあいの減少

交通の便

- ・交通手段がないと高齢者にとっては陸の孤島となる

- ・病院、商業施設が遠いため移動が大変

連携

- ・色々な組織はあるが独自で活動しており、まとまりがない

「良いところ」を継続し、「心配なところ」が少しでも解決に向かうためには…

つながり

- ・催しへの参加、体験をしてもらうことが一番。そこから知人、友達となり絆が深まる
- ・小中学生、高校生たちに地域の事を考えてもらい、子ども達の要望はできるだけ実現していく
- ・町内会長と相談し、班長さんとも相談する

担い手について

- ・町内役員の仕事の見直しをする。みんなの町内会という意識付けをしていく
- ・人のつながりを増やすため、リーダーの育成、活動の場を広げる取り組みができれば…

実施地区：光南台中学校区

基本情報

人口6,107人 世帯数2,802世帯 高齢化率34.3% R2.9末現在

光南台学区は児島半島湾の入り口に位置する小串学区と南側に位置する甲浦学区から成り立っています。現在は、蘭や菊の栽培、海苔の漁業が盛んです。また、数多くの神社や寺院がある歴史のある地域で、瀬戸内海国立公園の一角をなす美しい景観がある風光明媚な地域です。



地域の「良いところ」

顔の見える関係

- ・近所の人と仲良くしている
- ・助け合いの精神がある
- ・地元の高齢者が集まる会があり、行くところがある。
- ・年中行事が充実している

環境

- ・風光明媚で四季を感じられる
- ・自然に恵まれている

地域の「心配なところ」

交通の便

- ・買い物に行くにも足が無いので困る
- ・バスの便が少なくなっているので将来が心配

コミュニケーション

- ・移動がほぼ車なので、近所の人と顔を合わせることがなかなかない
- ・昔ながらの付き合いが少ない

高齢化

- ・若い人が減少してきたので寂しい感じがする

「良いところ」を継続し、「心配なところ」が少しでも解決に向かうためには…

コミュニケーション

- ・一人暮らしの人が増えているので、家の中にこもらずなるべく近所の人々と話や声かけをするなど交流をするようにする
- ・まずは健康第一なので、できるだけ体を動かしながらみなさんと一緒に集まり、コミュニケーションを取っていきたい
- ・情報が分かるように、町内での情報共有をしていく

交通の便

- ・マイクロバスでもいいので買い物ツアーを月に数回行う